

カンボジア「ひろしまハウス」に対する緊急支援にご協力お礼

他ならぬコロナ禍により、全世界の活動が停滞に追い込まれています。それこそまさに全人類の叡智が試されているように思われてなりません。そんな折、私たちと関わりを持つカンボジア・プノンペン「ひろしまハウス」ゼネラルマネージャー友廣壮希氏から現地の過酷な現状のレポートが届きました。「ひろしまハウス」は約50名の貧困層や家庭環境に恵まれない子ども達の教育支援をしています。

カンボジアでは春頃からコロナ感染症の急激な拡大により、街は大規模なロックダウンとなり、居住地区からの出入りが厳格に制限されました。ただでさえ貧しい家庭環境でありながら、収入は途絶え、物価は約5倍に高騰したそうです。現地の子ども達の生命を守ることに不安を感じました。そこで子ども達の現状把握と安心安全の確保、物資の供給を現地の先生方やスタッフにお願いしました。あわせて、『カンボジア「ひろしまハウス」に対する緊急支援』の募集を行い、その結果、約30万円のご寄付をいただきました。7月6日、日本のサポート団体「カンボジアひろしまハウス協会」を通じて現地に送金させていただきました。あらためてここにご報告いたします。

また、「中日新聞社」を通じて「中国新聞社」にも声をかけさせていただきました。広島県民の皆様にも紙面を通じてご協力をお願いし、約50万円のご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

国際ボランティア団体チーム「アジアの風」 代表 河合健太郎



「ひろしまハウス」から感謝のメッセージが届きました

先日、「ひろしまハウス」に関わりのある子ども達、32世帯への食料支援が完了致しました！

家族の皆さんからは早速「ご飯を作ったよー！」という写真が送られてきております！「ひろしまハウス」スタッフも各家庭に確実に支援物資を配布するため、感染予防対策、警察との連携等、しっかり事前準備をしました。そのおかげでスムーズに作業が進みました！

みんな生活環境はコロナのおかげで大変ですが、乗り越えましょう！

この度の支援におきまして、「ひろしまハウス」の支援団体である国際ボランティア団体チーム「アジアの風」様が日本での寄付を呼びかけ、支援金を募ってくださいました！国際ボランティア団体チーム「アジアの風」様、並びに団体様を通して寄付して頂いた日本の皆様本当にありがとうございました。「ひろしまハウス」スタッフ一同心より感謝申し上げます！！

カンボジアプロジェクト2021 「ありがとうの花をさかせよう」スタートします！

昨年からのコロナ禍により、カンボジアの街は大規模なロックダウンとなりました。居住地区からの出入りが厳格に制限されることも多くなりました。「ひろしまハウス」では授業の実施が困難な状態です。

私たちが実施しているプロジェクトも昨年に続き中断を余儀なくされています。このままでは子ども達の学習の保証を行うことができないばかりか、学びたいという意欲を失わすことにもなりかねません。

貧困国の中でもカンボジアでは、スマートフォン等が比較的安価に手に入り、各家庭の保有率も高いと聞きました。そこでオンラインで我々のプロジェクトを再開、継続させていくことを考えました。

2019年から私たちは、日本語を学ぶカンボジアの子ども達に日本語の中で最も美しい言葉とされている「ありがとう」という言葉の意味と、その言葉に含まれる「思い」を活動の中で伝えてきました。今回、日本の子ども達と、カンボジアの子ども達とをリモートでつなぎ、「ありがとう」をテーマに交流を行います。その交流の会話から生まれた「ありがとう」のメッセージを使って、シンガーソングライター川名洋行氏が楽曲「ありがとうの花(仮題)」を制作します。この曲を活用して日本とカンボジアの交流をさらに深め、「ありがとう」の言葉の思いを広めていって欲しいと考えています。いつか日本やカンボジアのステージで子ども達の歌声を披露したいと考えています。皆様の応援をよろしくお願いします。

「ひろしまハウス」の子ども達の作品「ありがとうの花」が 2つの日本の美術館に展示されました。



◀「おかざき世界子ども美術博物館」11月末まで開催。



▲「長久手市福祉の家」(長久手温泉ござらっせ)にて展示 (9/18~10/10)